

保護者懇談会で説明しよう

12

目標

- ・学習指導方法を他のチームに納得してもらえるように説明する
- ・他のチームの発表内容から学べる部分を見つけて検討する

チーム学習
06-0

保護者(他のチーム)に具体的な学習指導の説明をしよう

後半のチーム学習では、「多様な学習者一人ひとりが主体的に学び、学力を高めていく」という共通テーマに対して「国語、算数・数学の学力を向上させるための本校の具体的な取り組み」について考えてきました。その学習成果を保護者(他のチーム)に評価してもらったり、逆に保護者として他チームの学校の方針を評価したりする中で、お互いに考えた学習指導法を検討しましょう。

★ 注意 ★

- ・聞きながら「評価シート」にコメントを記入します。評価シートは全てのチームの発表が済んでから一斉に交換します。
- ・とにかく時間を守ること。タイムキーパーは忘れずに時間を知らせるようにしましょう。

チーム学習
12-1

発表の反省とチーム学習の評価

他のチームからもらった評価シートを参考にして、チーム発表の評価をします。また、これまで一人ひとりのメンバーがどのようにチームの中で学習してきたのかを振り返って、最終段階の学習に活かしましょう。



Web 提出
12-2

チーム学習の評価2(個人)を提出

個人学習

最終レポートの構成と評価

- 07-5 資料 12-3 と 12-4 は、どのくらいの完成度を指して最終レポートを執筆するか
- 12-3 の見通しをもつための手引書となっています。最終レポートは、それぞれが設定し
- 12-4 た目標の高さの妥当性を査定する形で評価するので、資料 12-3 で公開している評
- 12-5 価観点や、求められていることなどをよく読んで、これまでのショートレポートやチームレポートを加筆修正してまとめてください。

次ページに「評価シート」の評価項目を示しています。

評価シート
評価項目

※評価シートは集合講習会で配布します。

チーム学習の評価2 (個人)

Web 提出



- 一旦このシートに記入した後、学習支援システムに入力して提出してください

チーム番号() 氏名()

後半のチーム学習を振り返って、あなたの学習を評価してください。

■A これまでのチーム学習で、メンバー間でお互いに連絡するためにどのような方法をとりましたか

- () 主として学習支援システムのチーム掲示板を利用した
- () 主としてチームでつくったメーリングリスト(例: Yahoo!グループなど)を使った
- () 掲示板とメーリングリストとを併用した
- () お互いに連絡先を交換して直接連絡(電話・メール)をとりあった
- () とくに連絡は取らなかった

★掲示板を使わなかった人に伺います。使用しなかった理由を教えてください。

()

■B 連絡にはどのような機器(ケータイとパソコン)を使用しましたか

- () ケータイだけを利用した
- () 主としてケータイを使い、一部はパソコンを利用した
- () 主としてパソコンを利用し一部はケータイを利用した
- () パソコンだけを使った
- () その他、具体的には()

★パソコンを使用したと答えた人に伺います。主にどこにあるパソコンを利用しましたか

自宅・大学・その他()

■C あなたのチーム学習の参加状況について教えてください

- チーム学習で、あなたが担当したのはつぎのどの役割ですか。 ()

① 司会 ② 技術 ③ 記録整理 ④ 計画管理 ⑤ その他(役割名:)

→実際どのような仕事をしましたか? ()

- あなたはその役割の担当者としてチームに貢献できましたか。

- () 自分が担った役割の意義を理解し、よく貢献できた
- () 自分が担った役割の意義は理解していたが、実際はあまり貢献できなかった
- () 自分が担った役割の意義をあまり理解できていなかったが、自分で判断してよく貢献した
- () 自分が担った役割の意義が理解できなかったため、あまり貢献できなかった
- () 自分が担った役割の意義が理解できなかつたし、貢献するつもりもなかった

- チームの中で役割を担って学習してきたことを振り返って、不満に感じたこと、満足したこと、他のメンバーに感謝したいこと、謝罪したいこと、「こんな役割が必要!」など自由に記述してください。

※このメッセージを自分のチームの掲示板に書き込んでみましょう。

■D チームで考えたチーム学習の規範を常に意識することができましたか。次の表にチームで考えた規範を挙げて、自分はそれぞれの規範を守れたか守れなかったかを数値化してください。

(03-2 参照)

(4…きちんと守れた 3…まあまあ守れた 2…あまり守れなかった 1…全く守れなかった)

規範	評価
例 掲示板に足跡を残す	4

左の結果をふまえて、規範をどのように改善していけばよいでしょうか。(図を描いてもよい)

■E 限られた時間を有効に使って、チームでうまく学習計画を立てることができましたか。

() はい

() いいえ (理由:)

■F 「01-5 チーム学習実践力の習得目標」と6週目の「06-1 チーム学習の評価」で既に5つ選択して目標を定め、達成度を記録してきました。今回の記録が最終版で、その合計点が成績の一部となります。次週、チームメンバーに自分の点数が妥当なものであるかを評価してもらいます。

やりかた

- ①課題：01-5 で課題として選択した5つの実践力に✓をつけましょう。
- ②最初：✓がついた能力における最初の自分の状態を4段階で評価しましょう。
- ③目標：01-5 で示した「目標」の数値を写しましょう
- ④中間：06-1 での達成度(「現在」で記入した数値)を写しましょう。
- ⑤最終：後半のチーム学習を終えた現在の、最終的な数値を入れましょう。

数値 (4…はいできます 3…少しできます 2…少し自信がないです 1…いいえできません)

チーム学習実践力		①課題	②最初	③目標	④中間	⑤最終
例	自分をコントロールして冷静に振舞える	✓	1	4	2	3
1	何事でも最後まで達成しようとする					
2	何事にも積極に取り組める					
3	何事にも自信をもって取り組める					
4	物事を計画的に進めることができる					
5	物事を分析的に考えることができる					
6	物事を概念的あるいは抽象的に考えられる					
7	効率よく的を射た情報を収集することができる					
8	他の人を理解するように努めている					
9	他人とコミュニケーションをとることが苦痛でない					
10	他の人を説得したり影響を与えるように努めている					
11	チームワークを尊重しチームのために貢献できる					
12	まわりの状況を冷静に認識することができる					
13	自分をコントロールして冷静に振舞える					
14						
15						
						合計
						20点



最終レポートの構成

●● 最終レポートは以下のようにまとめます。07-5 と併せて熟読すること。

■ レポートの章立て

最終レポートの構成
 Microsoft Word にて A4(40 字×30 行
 の設定)で 10 枚以上
 (図表の挿入可)
 表紙*1・目次*2

1 章：チームで構想した学校

2 章：多様な学習者が主体的に学習し、一人
 ひとりの学力を高めるための具体的
 な学習指導方法

3 章：学習指導法の評価と学習者の査定
 ① 学習指導方法を改善する方法。
 ② 学習者の学習成果を確認する方法。

4 章：この講義の感想や希望

このレポートでは資料を使いながら長いレポートを書くことを重視しています。したがって、綴り方のように自分の思いや感想を書くのではなく、調べた事実や討議した結果によって説得することが大切です。
 レポートの初めに表紙と目次を入れてください。これは枚数には含まれません。

← 第1章は、1 回目のショートレポートを修正したものを利用するとよいでしょう。

← 第2章は、2 回目のショートレポートを修正したものを利用するとよいでしょう。

← 第3章は、つぎの①と②の両方を考えてください。

2 章の学習指導方法について

① 学習指導方法を改善するにはどのようなことを調べればいいですか。

② 学習した成果がどの程度まで到達しているかを確認する方法。

← 第4章は、この講義の感想や希望を書いてください。

■ 表紙の書き方

20××年度○学期教育方法学
 最終レポート

チーム番号：
 学籍番号 学部学科 回生 氏名

レポートのレベル申告 ()

チーム学習実践力の評価	Unit1	Unit13
・	()	()
・	()	()
・	()	()
・	()	()
・	()	()
13 週目の実践力合計	20 点満点中()点	

公開同意書
 後輩への公開について()
 web 上の公開について()

講義の正式名称を入れてください

チーム番号、学籍番号、学部学科、回生、氏名を記入する

レベル申告には AA, A, B, C より 1 つだけ選択して記入する

資料 12-2 と 13-1 を見て自分が選んだ 5 つの実践力を列挙し、最初の数値 (Unit1) とチーム内相互評価後の修正した最終数値 (Unit13) を記入し、最終数値の合計点を入力する。

このレポートを後輩が受講する「教育方法学」で公開してもよいですか。また大学あるいは NPO 法人学習開発研究所の web 上に公開してもよいですか。

次の番号を選択して記入して下さい。

- a. 実名入りで公開してもかまいません
- b. 公開してもかまいませんが、匿名を希望します
- c. 公開しては困ります



最終レポートの評価

●● 最終レポートを書くときの目標を決めるために熟読しましょう

この授業では、学習した成果が他の人から見えるようにデザインされています。というのが、大学での専門教育の目的は自分の教養を高めることだけではなく、他人に役立つ能力を高めることにあります。したがって知識や経験や技術などの学習は他人に役立つことが前提となります。医療技術のない医者、設計能力のない建築設計士、教育技術の貧弱な教師などは専門家とはいえません。したがってこの授業では学習した成果を他の人に役立つ能力として習得されていることが大切です。そこで授業の過程でできるだけ自己評価ができるように評価計画が組み立てられています。適切な自己評価のできることは、自分の学習計画を立案するのに役立ちますし、何よりも自信につながります。他人から評価される以前に自分の実力の的確なイメージをもっていることが社会に貢献するための前提条件だからです。したがって自分の学習成果を社会に向かってどのように保証するかが求められます。

この授業では、つぎのような能力が習得されたときに単位が取得されます。

■ 単位取得の条件 以下を合計した点数が成績となります。

参加点	20点から減点法（不参加は-2点、遅刻・早退は-1点）
チーム学習の実践力	最高20点（13-1参照→12-2項目Fをチームメンバーに評価してもらったもの）

レポートの点数は60点、その内訳は、

枚数点	最終レポートの枚数10枚で20点（10枚に満たない場合は1枚につき-2点）
内容点	最高30点（4段階でレベル申告しそれを調整して7段階の査定とする）
授業者の調整点	-5点から+5点の幅で調整する
レポートの公開性	学習成果の質保証のために自分の力量を公開することを原則とする。最高5点

■ 表紙に記入する成績に関わる情報について ※様式は12-3を参照すること

レベル申告と実践力の評価と公開同意書の項目の内容を、レポートの表紙にもれなく記入して提出してください。これらの記述がないと不本意にレベルが下げられたり評価対象外となったりするので忘れないようにして下さい。

申告するレベルと到達条件 ※（ ）内に示す点数はレポートの内容点のみ

レベル AA (30点を基準)	教科書やさまざまな文献(3冊以上)や資料を参考にして、自分なりの考え方を論理的に展開して説得力がある。レポートは実名で公開することを条件とする。
レベル A (20点を基準)	教科書と配布資料とその他2冊以上の文献を参考にして説得力のある文章にする
レベル B (10点を基準)	教科書と配布した資料や学習用図書を参考にしてレポートを作成する
レベル C (0点を基準)	参加は十分しているがレポートの作成に時間をかけることはできないのでとりあえず出す

●申告するレベルは1つだけ選択しますが、以下の条件をクリアしていなければレベルは下げられます。特に参考文献類の条件についてはよく確認し、参考文献を文中と文末に正確に示すようにしてください。

(資料 07-05-2, 12-3 参照)

●チーム学習実践力の到達点については既に資料 01-6, 06-1, 12-2 で5つ選択して、その到達状況を確認しているはずですが。これを更に資料 13-1 でチームメンバーからの評価を加え、最終的な合計点を出します。この合計点を入れないと20点が加点されないの、提出する前に必ず確認するようにしましょう。

●レポートを公開することについての同意書がなければ、個人ごとに確認しなければならないので、必ずa, b, cのいずれかの記号(12-3 参照)であなたの意思表示をしてください。

●参考文献と引用文献については、文中での表示している文献とレポート最後の文献リストが一致して初めて文献数がカウントされます。(詳細は 12-5)

■ レポートの内容点の評価基準と評価観点

学習者にとっては評価基準が示されているので到達度評価ですが、授業者から見たときは相対評価として適切な分布となるように課題の難度と評価基準とその配点を調整します。つぎの視点で加点方式とします。

申告レベル AA : 30点 A : 20点 B : 10点 C : 0点

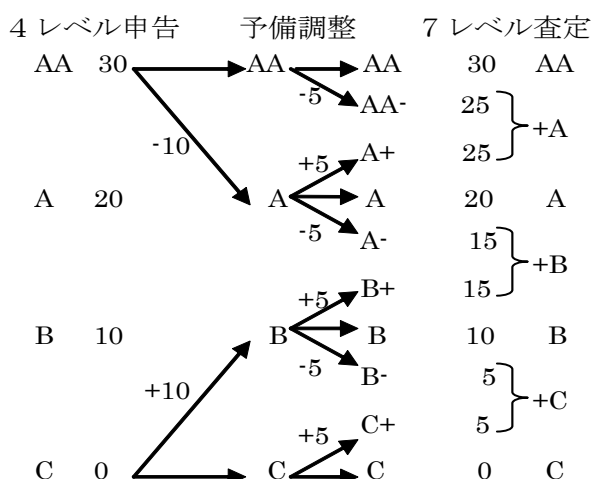
※不適切な申告については授業者がレベル調整をします。

AAとCの申告の場合 特に劣るAAには-10点、特に優れたCには+10点を加点します。

AとBの申告の場合 劣っているものには-5点、優れているものには+5点を加点します。

評価はつぎのような2段階の手順で行います。

1. まずAAと申告したもののうち特に劣っているものをAとします。Cと申告しても特に優れているものをBとします。
2. AAをさらにAAとAA-の2段階に区分します。
3. AをA+とAとA-の3段階に区分します。
4. BをB+とBとB-の3段階に区分します。
5. CをC+とCの2段階に区分します。
6. それぞれの区分の得点は右の表のようになります。
7. AAに申告していても、内容が悪ければAになり、それでも問題があればさらに-5点の配点になるのでB+の区分に入ることになります。



レベルの申告と査定

以上のような修正は、皆さんの学習成果に対する質保証が妥当かどうかの評価です。つぎの5つの観点「着想」「構成」「文章」「資料」「レイアウト」に着目して査定します。

8. 上記のみなさんの申告レベルからの評価に、さらに授業者の判断による観点で評価を-5点～+5点の範囲で加点していきます。

(授業者の判断で最高5点, 最低-5点)

観点	配点	観点を解釈
着想	1, 0, -1	新しい発想や自分たちで現在の教育問題をとらえて課題を設定している。
構成	1, 0, -1	レポートの全体を見通して各章が関連付けられている。
文章	1, 0, -1	自分の言葉で書かれており, 参考資料や文献のそのままの写しでない。
資料	1, 0, -1	統計, 実態その他, 教育に関する資料を利用して展開している。
レイアウト	1, 0, -1	文章のレイアウトが読みやすいように配慮されている。

9. 社会に広く貢献しているかどうかで加点します。(最高5点)

後輩への公開 (a)実名で公開可能: 2点 (b)匿名で公開可能: 1点 (c)非公開: 0点

Web上の公開 (a)実名で公開可能: 3点 (b)匿名で公開可能: 2点 (c)非公開: 0点

以上のような加点の結果, 最高点は100点となります。

これからは, すべての職業で自分が提供する専門性について, その質を保証することが求められます。農業従事者は, 自分が育てた作物に自分の名前, 使用した農薬など, さまざまな情報をICタグ(ICチップ)につけて消費者に流通していくようになります。医師は, 自分が行う治療について患者に説明することが求められています。すなわち, あらゆる職業で結果責任が問われるようになっていきます。このことは, 自分が行った成果について, その質を保証することが求められているということを示しています。

レポートに関するよくある質問

執筆要項



●● レポートを執筆するとき多くの人が抱く疑問点です

■ チームの考えと個人の考えのどちらを基準にすればよい??

チームの考えをベースにレポートを書いたほうがいいのか、個人の考えをベースにレポートを書いたほうがいいのかを迷っている人が多いと思います。次のことを選択基準にすると、どちらをベースにするかを定めることができます。

1. 1章から3章までの考えを一貫させることで、質の良いレポートを書きたい。

レベルの高いレポートを目指そうと思う人は、チームで様々な視点から練り上げた構想をベースにすることを勧めます。そうすることで、1章から3章までの主張で矛盾が生じにくく、読み手に主張が伝わりやすくなります。勿論、必要に応じて個人で部分的に加筆修正を行ってもよいです。レポート全体を人間の体に例えたとしたら、**背骨がきちんと通っているかどうか**が**美しい姿勢の基準**となりますので、**背骨としての考え方ははっきりと一貫させておくことが重要なポイント**となります。

2. 自分で書き易い内容を書きたい

チームで構想した内容に疑問を感じる場合や、チームで構想した内容がよく理解できていないという人は、自分の構想をベースに執筆することを勧めます。ただし、この場合は「あんな考えもよいし、こんな考えもよい」と多くの資料を引用しすぎるか、全く資料の引用がないパターンに陥る危険性が高く、前者は単なる「調べ学習」をした結果をまとめたものになり、後者は現実味のない空論に終わります。

自分の主張に説得力を補強する資料のみを選択して引用することで説得力の高いレポートになり、さらに3章間に一貫性を持たせて矛盾点がないようにまとめることで初めて相手に自分の主張を伝えることができます。

■ 参考文献・引用文献をどのように記載したらよいのですか?

他の人の考えを参考にしたり引用したりすることは、自分の主張をバックアップすることに効果的な手法です。しかし、勘違いしてはならないのは、バックアップするために他の人の考えを使用することが許されているのであって、自分のものとして示してはならないということです。なぜなら著作権を侵害する行為に相当するからです。したがって、レポートの文中と最後にどの文献を参考したり引用したりしたのかを示す必要があります。**資料 07-5 を参照して参考文献や引用文献を正しく示してください。**

★文中にも必ず文献を示すようにしてください。

文中表示例：…だといえる(苺谷, 2002) 苺谷(2002)は…という結果を示した

リスト表示例：苺谷剛彦ほか(2002)「岩波ブックレット No. 578『学力低下』の実態」岩波書店

文中での表示とレポート最後の文献リストが一致して初めて文献数がカウントされます。

★ホームページは文献としてカウントできるのか？

公式ホームページなどを参考にすることはできますが、目標レベルの到達条件に示されている参考文献の冊数には含めることができません。ただし、政府刊行の白書や学術論文が電子式文書にされたものを参照した場合は、白書は正式名と発行元と URL を、学術論文は、著者、発表年、表題、雑誌名、巻数、論文所在ページの順に示すことによって、到達条件の冊数にカウントすることが可能です。

■ 第3章の①と②の違いがよくわかりません。

この授業をデザインするときのメタファーとしてお酒を造るときの醸造技術に喩えました。この喩えを利用しながら説明しましょう。

- (ア) お酒を造るときには、原料となる米や麦が優れていなければなりません、それに麴(こうじ)を入れて発酵させて行く過程がさらに大切です。その間に細心の注意を払って温度を調整したり、攪拌(かくはん)したりする作業が必要です。しかもそれらをどのようなタイミングで行うかについての熟練が必要です。このようにタイミングに応じて指導していく過程でどのように判断し、どのように措置するかということが学習指導の評価になります。すなわち指導する人の対応が適切であったかが問題になります。
- (イ) 以上のような過程を経てお酒が造られたとき、出来上がったお酒をどのように等級づけるかが問題になります。清酒なのか焼酎なのか、さらに辛口なのか甘口なのかは造られる過程の違いによって決まります。この場合にはお酒そのものを銘柄として評価していることになります。とくにあらかじめ基準が決まっているとその基準に達しているかどうかを査定することになります。
- (ウ) 以上のように学習指導していく過程での評価は、指導にあたっている人、具体的には教師の教育技術に相当することを記述することになります。どのような内容を選ぶのか、それがどのように学ばれるのかということです。さらに②においては学習者がどのような能力を習得するのかなど学習成果についてそれをどのように評価するかを考えてみて下さい。